

テーマ「地域のみらいのための国土形成 ～東北広域地方計画と九州広域地方計画の比較～」

これまでの国土のあり方の方向性を示してきた全国総合開発計画に代わる新しい国土形成計画が進行中です。それは、全国計画と広域地方計画からなる二層の計画体系となっていることと多様な民間組織を含む新たな公を基軸とした地域づくりが特色です。東北では、新潟県を含めた東北7県で東北圏広域地方計画を策定中です。全体討論会は、この東北圏広域地方計画を討論の材料として、計画の意義、疑問点、計画のあり方、実現への方策などの各方面からの指摘をいただくともに、提言へのまとめを行うものです。このため、討論会前半では、広域地方計画についての制度と地域区分についての報告、東北圏広域地方計画内容の報告を行うとともに、東北圏計画の特徴を明示化するために九州圏計画の説明と東北圏計画との対比を行います。その内容は、仙台市と新潟市を核とした環太平洋・日本海ゲートウェイ、青森市に代表される東北発コンパクト

シティ（都市と農村の連携を含むという意味で東北発）、自動車産業群形成、限界集落対応などですが、加えて計画実現の担い手の中心となる新たな公の役割と社会運動ととらえたときの計画実現過程について焦点を当てる予定です。後半は、すで実践中である具体的な政策についての紹介とその展開のあり方への討議を行います。まず、青森市で実践中であるコンパクトシティ事業の報告とともに、各地域でのコンパクトシティ形成法の可能性、懸念、問題点についての討論を行います。次に、中小都市や農漁村集落において、地域おこし、福祉、交通サービスの斡旋、災害時の避難援助マッチングなどを行っているNPOの活動と組織についての紹介とその展開のあり方への討議を行います。特に、国土形成計画が期待している新たな公としての役割への期待についての意見をいただきます。



コーディネータ 森杉 壽芳（東北大学大学院経済学研究科特任教授）

1966年 京都大学工学部助手
1975年 株式会社三菱総合研究所
1979年 岐阜大学工学部助教授
1984年 岐阜大学工学部教授
1997年 東北大学大学院情報科学研究科教授
2007年 東北大学大学院経済学研究科特任教授

[著書・社会活動等]

専門は、公共プロジェクトの評価・環境経済評価。1989年に土木学会論文賞。土木学会理事、応用地域学会会長を歴任。「社会資本整備の便益評価」をはじめ著書多数。他に、IPCC Reviewer、国土交通省総合技術研究所外部評価委員長、東北地方広域計画懇談会座長などを歴任する。



パネリスト 矢田 俊文（北九州市立大学学長）

1971年 法政大学経済学部講師，72年 助教授，79年 教授
1982年 九州大学経済学部教授
1997年 九州大学副学長
2005年 北九州市立大学学長

[著書・社会活動等]

経済地理学会会長（1999～2005）、産業学会会長（1999～2000）、公立大学協会副会長、大学基準協会理事、国土審議会委員、九州圏広域地方計画協議会学識者懇談会委員長、九州地域戦略会議道州制検討委員会委員長、北九州基本構想審議会会長などを歴任する。著作に『21世紀の国土構造と国土政策』『地域構造論の軌跡と展望』がある。